

2007（平成19年度）事業の要旨



1993年秋に「カンボジアのこどもに学校をつくる会」として発足した当会は、2007年9月で**15年目**に入りました。今年度はこれを記念して、15周年記念式典を開催し、対外的に当会の存在をアピールすることができました。

1年で1校を目標にはじまった学校建設は、2008年度に完成予定の着工分を含めると**200校**を超えています。「200棟目は600人で建設しよう!」とはじまった募金運動は、お蔭様で予定以上の賛同者が集まり、2008年8月27日の贈呈式に向けてツアーの準備も着々と進んでいます。

当会は、2004年1月1日付けで19番目の認定NPO法人として国税庁より認定され、今年度は3回目の再申請も無事にクリアしました。この結果、寄付者の皆さまは、当会に寄付をくださることで控除の特典を得られ、当会は寄付金と寄付件数を前年度より増やすことができました。また、遺贈という形で寄付を頂戴する機会もありました。

2007年度の事業は、学校建設、教育支援、ボランティア派遣、啓蒙活動（広報啓発）事業ともに、事業方針として掲げた10項目に沿って、順調に事業を展開することができました。

学校建設事業は、今年度27棟124教室の実績をあげ、内訳は**小学校15棟70室（うち1棟は音楽棟）、中学校12棟54室（うち1棟は図書館）**となりました。また、生徒用の机椅子は**30000セット**を寄贈しました。受益者の数は、**生徒1万7935名、教師534名**となり、当会が目的とする教育環境の改善に貢献することができました。同時に、衛生施設の整備として**トイレ20棟89室、井戸5基**を設置することができました。

音楽教育支援では、教師養成のためのワークショップ

とフオロアアッププログラムを展開した結果、シアヌークビル市の小学校から**16名**の教師が修了し卒業しました。過去も含めワークショップに参加した教師は各地の学校で音楽授業を実施しており、その数は2008年3月末現在**109校**（小学校87校・中高14校・教員養成学校8校）と増加傾向にあります。

また、音楽教育の成果披露の場として、4回目となる音楽コンテストを開催しました。今年度は**過去最高の75校**が参加し、予選は5市県で8回実施しました。決勝では、小学校部門ではブノンペン市サクラクバルチュロイ小学校、中学校の部ではブノンペン市チュロイチョンバー中学校が優勝しました。また、本年度より、全国の教員養成学校（幼稚園・小学校・中学校）の音楽教員を対象とした音楽トレーニングを開始し、**33名**が参加しました。

美術教育支援では、教員対象美術ワークショップに**32名**が参加しました。これにより、当会でトレーニングをうけて、絵画授業を行っている学校は**67校**になりました。また、6地域で開かれた第6回絵画展には、日本の子どもたちの作品も含めて、**78校2657作品**が集まり、期間中**1万5814名**が来場しました。

音楽・美術事業で活用する学用品は、国内で広く募集し、特に、鍵盤ハーモニカは**1190台**を集めることができました。

マーチングバンドの支援では、今年度から新たに1校が加わり合計3校の**小・中学生145名**が参加し、カンボジア各地のセレモニー等で演奏を披露しました。同時に、日本の専門家による短期講習会（5年目）を実施し、技術の向上に努めています。



(左)クメールダンスを披露するCCHの子どもたち。(中央上)カレッジの修了式にて。(右上)ブリッジ建設中のカレッジメンバー、(下)15周年式典にて成果を披露するマーチングバンドメンバー。

当会支援のマーチングバンドは、10月25日から11月1日、徳島県で開催された第22回国民文化祭とJHP15周年祝賀会で演奏を披露する機会を得て、「ワットブロンサクラマーチングバンド」中学・高校生26名と引率5名の計31名が日本へ招聘されました。

孤児院支援事業では、当会が支援する児童養護施設(CCH:幸せの子どもの家)で生活する子どもは、当初16人から51名に増えました。学習面では、授業以外にCCH内で補習授業や語学を学ぶ機会を作り、成績優秀者が多数出ています。職業訓練は、クラブ作り、コンピューター、調理などに取り組んでいます。また、子どもたち独自の取組みとして、ロードショウチームやユースエンジニアチームが更に恵まれない子どもや高齢者を手助けする活動を行うなど、人間的な成長を見せています。また、JHPの15周年式典にはソカ所長と5名の女子が来日しクメールダンスを披露してくれました。

ボランティア派遣事業では、48名をカンボジアへ、2名をアフリカの毛布配布に派遣しました。

「小山内美江子国際ボランティア・カレッジ」は、第二期目を継続実施しました。座学は(講義)は2007年9月18日から2008年2月20日まで82回実施し、受講生19名と聴講生延べ377名が受講しました。この中から13名が2月24日から3月22日までカンボジア研修に参加しました。第二期は3月29日に修了式を行い、正規要件を満たした10名が修了しました。

啓蒙活動(広報啓発)事業では、第3回目となる天満敦子さんのヴァイオリンコンサートを開催し、寄付金が音楽教科書(改訂版)の印刷費に活用されました。また、15周年事業のメイン行事として記

念式典を開催し、超満員の581名の来場者と共に節目を祝うことができました。これ以外にも、例年どおり講演会や報告会の開催、外部イベントの開催などを積極的に行い、支援者の獲得や国際協力やボランティア活動の普及に励んで参りました。

ブロンペン事務所での啓蒙(広報啓発)事業として欠かせない受け入れ業務は365名を対応。これは前年度よりも100名以上増加しています。理由として、学校建設の支援者が贈呈式に出席する割合が増えたことが上げられます。今年度も多くの支援者にカンボジアの現状や当会の活動を紹介することができ、継続支援の可能性が広がっています。

運営管理面では、2007年7月に港区浜松町に事務所を移転したことが大きな変化となりました。事務局の体制は東京、ブロンペンともに整備されており、ボランティアの活躍と共に、事業の拡大充実に対応できる体制が整いつつあります。年度末には事業評価の勉強会を実施するなど、15年を節目に活動の成果をまとめるための準備も行いました。

しかしながら、新規会員数が当初の目標に達しなかったこと、会員継続率の低減、国際ボランティア・カレッジの聴講生の減少など課題も多く見られました。これらは改善に努めて参ります。

カンボジアの安定した発展の為に、まだまだ諸外国からの支援が必要です。また、世界には教育支援を必要としている多くの国があります。

今後も国際ボランティア団体として、活動の担い手を増やしながら、私たちが出来ることを世界の平和と子どもたちのために続けて参ります。どうか引き続きご支援くださいますようお願い申し上げます。